

論 文 内 容 要 旨

口腔不快症状の改善に与える義歯治療の影響

Influence of the denture treatment  
on the improvement of oral discomfort

神奈川歯科大学大学院歯学研究科

咀嚼機能制御補綴学講座 番 家 雅 子

(指 導： 木本 克彦 教授)

## 論文内容要旨

近年、日本の高齢化社会が急速に進むなか、“口腔乾燥感、口腔灼熱感、味覚異常”など口腔内に様々な不快症状を訴える高齢者が増えてきている。しかしながら、この口腔不快症状に対する歯科的なアプローチは未だ確立しておらず、その対応に苦慮しているのが現状である。当教室ではこれまでに、義歯治療による口腔不快症状の改善を認められた症例を報告し、口腔不快症状に対する義歯治療の有効性について着目してきた。本研究では、口腔不快症状に対する義歯治療の効果を調べるために症例を集積し、口腔不快症状に対する義歯治療の効果について記述統計を行った。さらには義歯治療だけではなく、口腔不快症状に影響するその他の因子についても合わせて検討した。

対象患者は、神奈川歯科大学付属病院総合歯科初診部門に義歯治療を希望して来院し、当科の補綴専門医が担当した患者の中で、口腔不快症状を自覚している者全員を対象とした。対象者に本研究の目的と内容を説明し、本研究内容を理解し、同意、協力頂けた48名を被験者とした。被験者に対し、聞き取り調査による口腔領域の不快症状の確認、視診による口腔内症状の確認および安静時・刺激時唾液流出量の測定を行い、対応した  $t$  検定を用いて義歯治療による術前・術後の比較を行った。また、口腔領域の不快症状、視診による口腔内症状に対しては、従属変数として年齢、性別、全身疾患、義歯治療の種類（現義歯調整のみの被験者に対する新義歯を製作した被験者の評価）、安静時唾液流出量の変化および刺激時唾液流出量の変化の6項目を、「安静時唾液流出量」および「刺激時唾液流出量」に対しては、年齢、性別、全身疾患および義歯治療の種類（現義歯調整のみの被験者に対する新義歯を製作した被験者の評価）の4項目を影響因子（説明変数）として設定し、重回帰分析を行った。

その結果、口腔内に不快症状を持つ高齢患者に義歯治療を行う事により、口腔不快症状、口腔内症状、安静時唾液流出量および刺激時唾液流出量の全ての診査項目において改善が認められた。また、口腔内の各不快症状に対して、年齢、性別、全身疾患（服薬）、義歯治療の種類（現義歯調整のみの被験者に対する新義歯を製作した被験者）、唾液流出量が影響し、中でも刺激時唾液流出量が大きく関与していた。さらに、義歯治療の中でも新義歯の製作は特に刺激時唾液流出量の改善に影響し、この刺激時唾液流出量は、口腔乾燥感、口腔灼熱感や痛み、口腔内症状の改善に影響している事が示された。このことから、本研究デザインの制限内ではあるが、高齢者の口腔不快症状に対する対処法の一つとして義歯治療の有効性が示唆された。

